



## 短大校雑感

昨年4月産業技術短大の校長に就任した。着任してすぐ入学式があり、はじめに新生一人ひとり200人の紹介があったが壇上の中央に立った瞬間、ハッと息を呑んだ。茶色と金色の千鳥格子のような列が目に飛び込んできた、“今の時代茶髪、金髪がこんなに普通にいるのか！”と改めて驚いた。

40年近くの県行政経験で大勢の若者に一堂に会する機会がなかった私にとって新鮮な驚きだった、と同時に偏見の目で見れば申し訳ないが“これで2年後に卒業させ社会人として無事送り出すことができるのか”と一瞬不安が頭をかすめた。県内だけでも150の大学、短大、専門学校があるなかで当短大に優秀な学生ばかりを集めることはできない、要は入学してからの頑張りである。そうしたなかで毎年学生達を一定のレベルまで教育訓練し社会に送り出している我が短大の先生も大変であり、それだけ優秀な先生達が集まっていると思えば安心した。学生達は「おはよう！」と言えば「おはようございます」と言うし、学業も頑張っているごく普通の若者である。

その後、当短大校主催の合同企業説明会で学生達をよく見ると、なんと男子も女子も髪の毛が真っ黒ではないか、それにどこの新採用者かと見間違ふような服装にビシッと決めている。ボサボサ頭も厚底サンダルもない、“やるときはやるじゃないか！”と妙に感心しながら立ち止まっている学生を見つけてはアドバイスをし、企業のブースへ促した。

学生の就職意識が低くなっている昨今、2年制の短大では少しでも早くから働くことの意義を理解させ社会人への意識を醸成させる必要がある。そこで、昨年初めて1年生を対象に当短大校を支援していただいている企業の協力を得ながら「一日企業就業体験」を実施した。また、専門の講師を招いて社会人マナー教室も実施した。あいさつの仕方や名刺のやり取り、電話の受け応え、返事の仕方等等教え方が

絶妙のうまさで、あっという間にぎこちない学生のあいさつもスムーズなあいさつに変わっていく、さすがプロの教え方だ！

この学生達が2年生になった今年の合同企業説明会では皆落ち着きがあり、各企業のブースへ積極的に出向くなど昨年と比べ明らかに様子が違っていた。終了後、参加企業106社に対するアンケートを集計したところ「学生の態度」については「非常に良い・好感が持てる・礼儀正しい・マナーが良い・真面目・積極的・明るい」等の「良い」とする割合がなんと83%にもなった。社会人としての意識付けを早めに行ってきた成果は確実に現れている。

しかし、ものづくりや働くことの大切さ、社会的なマナーなどは小さい頃から学校教育の一環として教えていくべきではないだろうか。企業や施設に出向いて働く現場やものをつくる現場を見させ就業体験やボランティアなど実際に自分の体を使って体験させることが大変大事であると思う。最近、小学校で親の勤めている会社の見学や、中学校で就業体験学習をする学校も出てきている。こういう試みはもっともっと広がればいいと思う。

「最近の若者は」とよく言うがわれわれも昔は「最近の若者」であった。言えばわかるし、教えればわかるのである。我が校の学生も1期生から5期生まで就職は100%近くになっているし、会社でも活躍している様子である。いつの時代の若者もやればできるではないか！彼らの力に任せよう！私は、学生達にしっかりと進むべき道筋をつけてあげようと思う。

しみず ゆうすけ

略歴 平成4年 神奈川県労働部労働福祉課長  
7年 労働部労政課長  
9年 労働部労働総務室長  
10年 労働部次長（11年 商工労働部）  
12年 現職